

## God knows に関する認知的研究

God knows という言語表現は本来、「神のみぞ知る」という意味から派生して「誰も知らない」という意味を表す。*COBUILD* (改訂第3版) は God knows という言語表現の意味を次のように示している。

1. You can say **God knows**, **God only knows**, or **God alone knows** to emphasize that you do not know something.
2. If someone says **God knows** in reply to a question, they mean that they do not know the answer.

Jespersen (1917)は、様々な間接否定表現をその使用文脈との関連で考察しているが、God knows もその一例として取り上げられている。それによれば、この言語表現は、英語だけでなく様々な言語で ‘I don’t know’ という意味を表わすのに用いる常套手段になっているとともに、時に、強い誓言としても使われている。しかし、Jespersen (1917)はこれ以上の分析を行ってはおらず、他の間接否定表現との関連性も述べられてはいない。

また、山梨 (2000) は、日本語の「外」、「越える」、「ほど遠い」、「不足している」などの空間を含意する言語表現が間接否定の意味を表すことがあるという事実を認知言語学的な視点から考察している。しかし、God knows は空間表現ではないため山梨 (2000) の議論の中には組み込まれていない。本発表では、God knows の認知的基盤をその使用文脈に注目して考察していく。

God knows が否定的な意味を表すようになった背後には、キリスト教と聖書の普及があったと思われる。長い期間をかけて聖書が普及したおかげで、クリスチャン以外の人でも、God (小文字の god ではなく) が何であるかは分かる。God は至高の存在、すなわち“the creator and ruler of the universe and source of all moral authority”であり、“the supreme being”である (cf. *ODE* “God”より)。一見したところ God は、山梨(2000) が述べている「外」、「越える」、「ほど遠い」、「不足している」という空間表現とは関連がないように思われる。しかし、人類全体を容器に喩えると、God はその容器の「外」の存在であり、その容器を「越えた」存在であり、その容器から物理的に「ほど遠い」ところにいる存在であると考えられる。また、人類には少なくとも、God のような絶対的な力は「不足している」。God は、その意味で、間接

的にではあるが、山梨(2000)の空間性を含意していると考えられる。

*COBUILD* (改訂第3版) の記述から *God knows* は *God only knows* あるいは *God alone knows* で用いられることもあるのが分かる。従って、この最上で、最強の存在が知っているということは、その存在以外は分からないということになる。*God knows* が「神ではない人間は、誰も知らない」という意味を伝えるのはこのためである。

Jespersen(1917)は、否定詞を強める方法はいろいろあると述べている。それらの中の一つとして、何か非常に小さいものを意味する実名詞を従接詞(subjunct) として用いる場合があるという。絶対的に、唯一の存在である *God* 自体が‘強意’を含意していると思われる。

大沼(1973)は、*Monroe knows that Paris is the capital of Sweden.* と *Monroe thinks that Paris is the capital of Sweden.* を比較して、前者の場合にのみ、*Monroe* だけでなく話者の無知をも露呈する文となることを指摘している。これは *know* が叙実動詞であるためであり、叙実動詞においては、話者は補文(complement) の内容を事実であると認めているという(話者が補文の内容を真であると信じていること)前提に立っているからであるという。したがって、*Monroe does not know that Paris is the capital of Sweden.* のように否定文にしても、上で述べた事情は変わらないと述べている。

*God knows* においては、通常補文で表される *know* の内容も失われ、質問に対して答えるという限られた文脈内で用いられる (cf. *COBUILD* “*God knows*”2)。この状況において、*God knows* が語用論的に派生した「神ではない人間は、誰も知らない」という意味を表すようになっているという事実から、この用法の成立は Tranggott & Konig (1991)の示す第2の主観化(外界の)に相当する変化であるといえる。本発表では、さらに “*God knew*”の事例にも注目し、この文が使われる文脈なども考慮していく。以上のような議論をもとに、本発表では、*God knows* の意味を山梨の研究と関連させて認知図式を使って表してみる。

## <References>

- 秋元実治. 2002. 『文法化とイディオム化』 東京：ひつじ書房.
- Bolinger, Dwight. 1972. *That's That*. The Hague:Mouton.
- Celce-Murcia, Marianne, and Diane Larsen-Freeman. 1983. *The Grammar Book: An ESL/EFL Teacher's Course*. Rowley, Mass.: Newbury House.
- Coates, Jennifer. 1983. *The Semantics of the Modal Auxiliaries*. London: Croom Helm. (Japanese Translation by Harumi Sawada, Tokyo: Kenkyusha, 1992.)
- Ikeda, Giichiro. 1967. *Hitei Gimon Kyoï Kanjo no Hyogen* (English Expressions of Negation, Question, Emphasis, and Emotion ). Tokyo: Kenkyusha.
- Jespersen, Otto. 1917. *Negation in English and Other Languages*. Copenhagen: HΦst. (abridged Japanese Translation by Shigeru Watanabe, Tokyo: Kenkyusha, 1960. )
- \_\_\_\_\_. 1924. *The Philosophy of Grammar*. London: George Allen & Unwin.
- Kiparsky, Paul and Carol Kiparsky. 1970. “Fact” *Progress in Linguistics: A Collection of Papers*, ed. by Manfred Bierwisch and Karl E. Heidolph, 143-73. The Hague: Mouton.
- Langendoen, D.Terence. 1970. *Essentials of English Grammar*. New York: Holt Rinehart and Winston.
- 松本 曜. 2003. 『認知意味論』 東京：大修館書店
- 巻下 吉夫、瀬戸 賢一. 1997. 『文化と発想のレトリック』 東京：研究社
- Nishimitsu, Yoshihiro (ed.). 1997. *Nichiei Taisho niyuru Eigogaku Gairon* (An Introduction to English Linguistics: With Special Reference to the Contrasts between English and Japanese ). Tokyo: Kuroshio Shuppan.
- Ohnuma, Masahiko. 1968. *Seishitu Jotai no Iikata / Hikaku Hyogen* ( English Expressions of Quality, State, and Comparison ). Tokyo: Kenkyusha.
- \_\_\_\_\_. 1975. “Gengogaku to Goho Kenkyu: Gengogaku ga Teikisurumono (Linguistic Implications for the Study of Usage).” *Jimbunkenkyu* 27:10, 3-26.
- 大沼雅彦. 2009. “I don’t know (that)...をめぐって” 『サピエンチア聖トマス大学論叢』 43、217-230.
- 太田 朗. 1980. 『否定の意味：意味論序説』 東京：大修館書店
- Schourup, Lawrence, and Richard T. Cauldwell. 1991. *From Text to Context*. Tokyo: Kuroshio Shuppan.
- Sugiyama, Chuichi. 1998. *Eibunpo Syokai* (A Comprehensive English Grammar). Tokyo: Gakken.
- Takamasu, Nayo. 2000. *Eigo no Suearingu* (Swearings in English). Tokyo: Kaitakusha.
- Traugott,, Elizabeth, and Ekkehard Konig. 1991. The semantic-pragmatics of grammaticalization

- revisited. In *Approaches to grammaticalization* Vol. 1: *Focus on theoretical and methodological issues*, ed. Elizabeth Closs Traugott and Bernd Heine, 189-218. Amsterdam/ Philadelphia: John Benjamins.
- van der Wouden Ton (1994) *Negative Contexts*, Ph.D. Dissertation, University of Groningen
- Yamanashi, Masa-aki 2000. “Negative Inference, Space Construal, and Grammaticalization,” in Laurence Horn and Yasuhiko Kato (eds.) *Negation and Polarity: Syntactic and Semantic Perspectives*, pp.243-245, Oxford: Oxford University Press.
- 山梨正明. 2000. 『認知言語学原理』 東京：くろしお出版.
- 山梨正明. 1992. 『推論と照応』 東京：くろしお出版.
- 安井 稔. 1996. 『改訂版英文法総覧』 東京：開拓社
- 吉村あき子. 1999. 『否定極性現象』 東京：英宝社